

## 平成21年3月期 第2四半期決算短信

平成20年11月6日

上場会社名 株式会社 コーセー  
 コード番号 4922 URL <http://www.kose.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長  
 問合せ先責任者 (役職名) IR課長  
 四半期報告書提出予定日 平成20年11月14日

(氏名) 小林 一俊  
 (氏名) 中田 仁典  
 配当支払開始予定日

上場取引所 東  
 TEL 03-3273-1511  
 平成20年12月10日

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成21年3月期第2四半期の連結業績(平成20年4月1日～平成20年9月30日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
21年3月期第2四半期	88,451	—	4,603	—	4,872	—	1,583	—
20年3月期第2四半期	88,119	3.9	6,696	40.2	6,992	41.2	3,134	80.3

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
21年3月期第2四半期	27.17	—
20年3月期第2四半期	52.20	—

## (2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円	%	百万円	%			円 銭	
21年3月期第2四半期	170,908		103,291		57.2		1,683.84	
20年3月期	172,128		105,048		58.1		1,693.55	

(参考) 自己資本 21年3月期第2四半期 97,743百万円 20年3月期 100,000百万円

## 2. 配当の状況

(基準日)	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	年間
	円 銭				
20年3月期	—	20.00	—	20.00	40.00
21年3月期	—	20.00	—	—	—
21年3月期(予想)	—	—	—	20.00	40.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

## 3. 平成21年3月期の連結業績予想(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	181,500	0.7	13,400	△11.8	13,600	△8.4	5,700	△17.4	98.01

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 有

## 4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有

(注) 詳細は、5ページ【定性的情報・財務諸表等】 4. その他をご覧ください。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更)に記載されるもの

- ① 会計基準等の改正に伴う変更 有  
 ② ①以外の変更 有

(注) 詳細は、5ページ【定性的情報・財務諸表等】 4. その他をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 21年3月期第2四半期 60,592,541株 20年3月期 60,592,541株  
 ② 期末自己株式数 21年3月期第2四半期 2,544,388株 20年3月期 1,544,258株  
 ③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間) 21年3月期第2四半期 58,264,505株 20年3月期第2四半期 60,049,145株

## ※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が発表日現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は経済情勢の変動等に伴うリスクや様々な不確定要因により大きく異なる可能性があります。業績予想に関する事項は、【定性的情報・財務諸表等】 3. 連結業績予想に関する定性的情報をご覧ください。

2. 当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

定性的情報・財務諸表等

1. 連結経営成績に関する定性的情報

第2四半期連結累計期間（平成20年4月1日から平成20年9月30日まで）

事業区分	平成19年9月中間期		当第2四半期 累計		前年同期比較	
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	増減額 (百万円)	増減率 (%)
化粧品	64,482	73.2	64,874	73.4	392	0.6
コスメタリー	22,254	25.2	22,588	25.5	333	1.5
その他	1,381	1.6	988	1.1	△393	△28.5
売上高計	88,119	100.0	88,451	100.0	332	0.4

※ 前年同期比較数値につきましては参考値として記載しております。

区分	平成19年9月中間期		当第2四半期 累計	
	金額 (百万円)	売上比 (%)	金額 (百万円)	売上比 (%)
営業利益	6,696	7.6	4,603	5.2
経常利益	6,992	7.9	4,872	5.5
四半期（中間）純利益	3,134	3.6	1,583	1.8

① 概況

当第2四半期連結累計期間（平成20年4月1日から平成20年9月30日まで）における日本経済は、海外における金融危機の影響による世界経済悪化への懸念が高まる中、雇用者所得の伸び悩みや原材料等価格の高騰による物価の上昇などから個人消費は弱めの動きとなり、企業収益も減少を続けるなど、景気の先行き不透明感が広がりました。化粧品業界におきましては、本年8月までの平成20年度の経済産業省化粧品出荷統計（暦年）によりますと、販売個数、販売金額とも対前年同期比で微減となりました。

このような市場環境の中、当社グループは、独自のブランドマーケティングを進化させ、多様化する市場や生活者ニーズに柔軟に対応するとともに、経営資源の最適配分を推進し経営効率の向上と収益力の強化に取り組んでまいりました。

当第2四半期連結累計期間における当社グループの業績につきましては、化粧品事業とコスメタリー事業が伸長したことにより、売上高は88,451百万円（前年同期比0.4%増）となりました。なお、海外売上高の為替の影響を除くと前年同期比1.1%増となります。

利益につきましては、改革に伴う一時的費用や本社移転関連費用等の発生もあり、営業利益は4,603百万円、経常利益は4,872百万円、四半期純利益は1,583百万円となりました。

② セグメント別の状況

(a) 化粧品事業

事業区分		平成19年9月中間期	当第2四半期 累計	増減額	増減率 (%)
外部顧客に対する売上高	百万円	64,482	64,874	392	0.6
セグメント間の売上高	百万円	9	—	—	—
売上高計	百万円	64,492	64,874	382	0.6
営業利益	百万円	7,242	6,100	—	—
営業利益率	%	11.2	9.4	—	—

化粧品事業につきましては、国内では、「コスメデコルテ AQ」メイクアップシリーズのリニューアルを行うなど、化粧品専門店や百貨店で扱う高級品の育成に努めました。また、「雪肌精シューブプレミアム」の発売や、「インフィニティ」取扱店舗の拡大など、カウンセリング販売に力を注ぎました。

海外においては、台湾に「ジルスチュアート」、中国に「リンメル」を導入するなど、ブランド展開の強化を図りました。一方で、為替相場が円高基調で推移したことにより、円換算ベースでの売上高は前年同期を下回りました。

これらの結果、当事業の売上高は、64,874百万円（前年同期比0.6%増）、営業利益は6,100百万円となりました。

(b) コスメタリー事業

事業区分		平成19年9月中間期	当第2四半期 累計	増減額	増減率 (%)
外部顧客に対する売上高	百万円	22,254	22,588	333	1.5
セグメント間の売上高	百万円	—	—	—	—
売上高計	百万円	22,254	22,588	333	1.5
営業利益	百万円	638	△259	—	—
営業利益率	%	2.9	—	—	—

コスメタリー事業につきましては、前年同期における新製品投入の反動や、取引店改革に伴う影響があったものの、主力となるブランドで顧客ニーズに応えたアイテムを充実させたほか、積極的な広告宣伝・販売促進活動を実施するなど、ブランドの活性化と顧客の拡大に努めました。

これらの結果、当事業の売上高は22,588百万円（前年同期比1.5%増）、営業損失は259百万円となりました。

(c) その他の事業

事業区分		平成19年9月中間期	当第2四半期 累計	増減額	増減率 (%)
外部顧客に対する売上高	百万円	1,381	988	△393	△28.5
セグメント間の売上高	百万円	1,184	1,209	—	—
売上高計	百万円	2,566	2,197	△368	△14.4
営業利益	百万円	312	187	—	—
営業利益率	%	12.2	8.5	—	—

その他の事業につきましては、代理店販売を中心とする特需部門の売上高が増加しましたが、相手先ブランド製品に関する受注生産の受託高が減少しました。

これらの結果、前期に子会社2社を売却したこともあり、売上高は988百万円（前年同期比28.5%減）、営業利益は187百万円となりました。

## 2. 連結財政状態に関する定性的情報

資産は、前連結会計年度末に比べ1,219百万円の減少となりました。現金及び預金の増加4,795百万円、有価証券の減少4,706百万円、商品及び製品の増加772百万円、有形固定資産の増加1,210百万円、無形固定資産の減少404百万円、及び投資有価証券の減少4,574百万円等によるものであります。

負債は、前連結会計年度末に比べ536百万円の増加となりました。支払手形及び買掛金の増加2,779百万円、未払法人税等の減少1,485百万円、及び退職給付引当金の減少1,129百万円等によるものであります。

なお、有利子負債残高は4,881百万円、デット・エクイティ・レシオは0.05倍となりました。

### 3. 連結業績予想に関する定性的情報

今後の経済情勢につきましては、世界規模の金融危機の影響で世界経済が減速する中、国内外ともに企業収益の悪化や個人消費の減退が懸念されるなど、景気の低迷が続くものと予想されます。化粧品業界におきましては、国内需要が伸び悩む中、企業間競争の激しさも増しております。

このような事業環境を踏まえ、次の通り業績の見直しを変更いたします。

前提となる為替レートの見直しのほか、製品の売上構成による原価率の上昇等を見込み、売上高は181,500百万円（前期比0.7%増）、営業利益は13,400百万円（同11.8%減）、経常利益は13,600百万円（同8.4%減）、当期純利益は5,700百万円（同17.4%減）を予想しております。

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想（A）	百万円 183,700	百万円 15,500	百万円 15,700	百万円 7,400	円 銭 127.24
今回発表予想（B）	181,500	13,400	13,600	5,700	98.01
増減額（B－A）	△2,200	△2,100	△2,100	△1,700	——
増減率（%）	△1.2	△13.5	△13.4	△23.0	——
（ご参考）前期実績 （平成20年3月期）	180,222	15,187	14,854	6,900	115.50

平成21年3月期（通期）の連結業績予想（平成20年4月1日～平成21年3月31日）

事業区分	平成20年3月期		平成21年3月期		前年同期比較	
	金額 （百万円）	構成比 （%）	金額 （百万円）	構成比 （%）	増減額 （百万円）	増減率 （%）
化粧品	134,139	74.4	134,900	74.3	760	0.6
コスメタリー	43,559	24.2	45,000	24.8	1,440	3.3
その他	2,524	1.4	1,600	0.9	△924	△36.6
売上高計	180,222	100.0	181,500	100.0	1,277	0.7

区分	平成20年3月期		平成21年3月期		前年同期比較	
	金額 （百万円）	売上比 （%）	金額 （百万円）	売上比 （%）	増減額 （百万円）	増減率 （%）
営業利益	15,187	8.4	13,400	7.4	△1,787	△11.8
経常利益	14,854	8.2	13,600	7.5	△1,254	△8.4
当期純利益	6,900	3.8	5,700	3.1	△1,200	△17.4

※主要な為替レートにつきましては、104円/米ドル、3.3円/台湾ドル、15.0円/中国元を想定しています。

#### 4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

法人税等並びに繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法

法人税等の納付税額の算定に関しては、親会社及び一部の連結子会社において、加味する加減算項目や税額控除項目を重要なものに限定する方法によっております。

また、繰延税金資産の回収可能性の判断に関しては、前連結会計年度末以降に経営環境等、かつ、一時差異等の発生状況に著しい変化がないと認められるものについては、前連結会計年度において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングを利用する方法によっております。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

①当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第12号）及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第14号）を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

②重要な資産の評価基準及び評価方法の変更

たな卸資産

通常の販売目的で保有するたな卸資産については、従来、主として総平均法による原価法によっておりましたが、第1四半期連結会計期間より「棚卸資産の評価に関する会計基準」（企業会計基準第9号 平成18年7月5日）が適用されたことに伴い、主として総平均法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）により算定しております。

これによる損益への影響はありません。

③「連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱い」の適用

第1四半期連結会計期間より、「連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱い」（実務対応報告第18号 平成18年5月17日）を適用し、連結決算上必要な修正を行っております。

これによる損益への影響は軽微であります。

④リース取引に関する会計基準の適用

所有権移転外ファイナンス・リース取引については、従来、賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっておりましたが、「リース取引に関する会計基準」（企業会計基準第13号（平成5年6月17日（企業会計審議会第一部会）、平成19年3月30日改正））及び「リース取引に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第16号（平成6年1月18日（日本公認会計士協会 会計制度委員会）、平成19年3月30日改正））が平成20年4月1日以降開始する連結会計年度に係る四半期連結財務諸表から適用することができることになったことに伴い、第1四半期連結会計期間からこれらの会計基準等を適用し、通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理によっております。また、所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産の減価償却の方法については、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。なお、リース取引開始日が適用初年度前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を引き続き採用しております。

これによる影響は軽微であります。

5. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成20年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	23,902	19,107
受取手形及び売掛金	24,402	24,735
有価証券	24,168	28,875
商品及び製品	11,909	11,137
仕掛品	1,261	1,299
原材料及び貯蔵品	10,117	8,862
繰延税金資産	4,795	4,725
その他	2,435	2,035
貸倒引当金	△287	△276
流動資産合計	102,704	100,502
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	30,616	28,420
減価償却累計額	△17,054	△16,653
建物及び構築物（純額）	13,562	11,767
機械装置及び運搬具	13,839	13,855
減価償却累計額	△11,574	△11,507
機械装置及び運搬具（純額）	2,265	2,347
工具、器具及び備品	26,304	25,474
減価償却累計額	△20,555	△19,857
工具、器具及び備品（純額）	5,748	5,616
土地	17,773	17,773
リース資産	71	—
減価償却累計額	△1	—
リース資産（純額）	69	—
建設仮勘定	623	1,326
有形固定資産合計	40,041	38,831
無形固定資産		
ソフトウェア	2,447	2,947
その他	695	600
無形固定資産合計	3,143	3,548
投資その他の資産		
投資有価証券	8,587	13,161
繰延税金資産	12,969	13,260
その他	3,750	3,070
貸倒引当金	△288	△246
投資その他の資産合計	25,018	29,246
固定資産合計	68,204	71,625
資産合計	170,908	172,128

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成20年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	16,782	14,002
短期借入金	4,808	4,824
リース債務	17	—
未払金	6,198	6,686
未払費用	7,886	7,288
未払法人税等	2,226	3,711
未払消費税等	346	617
返品調整引当金	2,376	2,321
その他	1,043	692
流動負債合計	41,686	40,145
固定負債		
リース債務	55	—
退職給付引当金	22,068	23,197
役員退職慰労引当金	3,766	3,649
その他	41	87
固定負債合計	25,930	26,935
負債合計	67,617	67,080
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,848	4,848
資本剰余金	6,390	6,391
利益剰余金	92,979	92,577
自己株式	△7,228	△4,789
株主資本合計	96,990	99,027
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	204	230
為替換算調整勘定	548	743
評価・換算差額等合計	753	973
少数株主持分	5,548	5,047
純資産合計	103,291	105,048
負債純資産合計	170,908	172,128

(2) 四半期連結損益計算書  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	当第2四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日)
売上高	88,451
売上原価	22,800
売上総利益	65,651
販売費及び一般管理費	
広告宣伝費	4,465
販売促進費	19,409
運賃及び荷造費	2,713
給料及び手当	19,462
退職給付費用	403
福利厚生費	3,427
減価償却費	1,342
その他	9,823
販売費及び一般管理費合計	61,047
営業利益	4,603
営業外収益	
受取利息	171
受取配当金	87
雑収入	94
営業外収益合計	353
営業外費用	
支払利息	44
為替差損	26
雑損失	15
営業外費用合計	85
経常利益	4,872
特別利益	
固定資産売却益	0
投資有価証券売却益	36
移転補償金	85
特別利益合計	122
特別損失	
固定資産処分損	80
投資有価証券評価損	12
その他	6
特別損失合計	99
税金等調整前四半期純利益	4,894
法人税、住民税及び事業税	2,540
法人税等調整額	236
法人税等合計	2,777
少数株主利益	534
四半期純利益	1,583

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

当第2四半期連結累計期間  
 (自 平成20年4月1日  
 至 平成20年9月30日)

営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純利益	4,894
減価償却費	2,535
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	54
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	△1,129
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	116
その他の引当金の増減額 (△は減少)	54
固定資産処分損益 (△は益)	80
移転補償金	△85
受取利息及び受取配当金	△259
支払利息	44
為替差損益 (△は益)	17
投資有価証券売却損益 (△は益)	△36
投資有価証券評価損益 (△は益)	12
売上債権の増減額 (△は増加)	142
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△2,037
仕入債務の増減額 (△は減少)	2,334
その他の資産の増減額 (△は増加)	△289
その他の負債の増減額 (△は減少)	992
小計	7,441
利息及び配当金の受取額	244
利息の支払額	△50
移転補償金の受取額	85
法人税等の支払額	△4,036
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,685
投資活動によるキャッシュ・フロー	
定期預金の払戻による収入	100
有価証券の取得による支出	△13,979
有価証券の売却による収入	15,475
有形固定資産の取得による支出	△3,005
有形固定資産の売却による収入	1
無形固定資産の取得による支出	△643
投資有価証券の取得による支出	△333
投資有価証券の売却による収入	4,811
投資その他の資産の増減額 (△は増加)	△763
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,663
財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△18
自己株式の純増減額 (△は増加)	△2,439
配当金の支払額	△1,180
少数株主への配当金の支払額	△39
その他	△1
財務活動によるキャッシュ・フロー	△3,680
現金及び現金同等物に係る換算差額	△113
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	1,554
現金及び現金同等物の期首残高	34,093
現金及び現金同等物の四半期末残高	35,648

当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第12号）及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第14号）を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

[事業の種類別セグメント情報]

当第2四半期連結累計期間（自平成20年4月1日 至平成20年9月30日）

	化粧品事業 (百万円)	コスメタリー 事業 (百万円)	その他の事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	64,874	22,588	988	88,451	—	88,451
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	1,209	1,209	(1,209)	—
計	64,874	22,588	2,197	89,660	(1,209)	88,451
営業利益又は営業損失(△)	6,100	△259	187	6,028	(1,424)	4,603

(注) 事業区分の方法及び各区分に属する主要な製品の名称

事業区分は、内部組織管理上採用している区分によっております。

- (化粧品事業) 主要製品：コーセー・ポーテド コーセー・コスメデコルテ・プレディア・インフィニティ・製商品輸出・海外生産品・クリエ・アルピオン
- (コスメタリー事業) 主要製品：ファシオ・エルシア・サロンスタイル・ソフティモ・ステイブンノル コレクション・リンメル
- (その他の事業) 主要製品：アメニティ製品・不動産賃貸・原材料輸出

[所在地別セグメント情報]

当第2四半期連結累計期間（自平成20年4月1日 至平成20年9月30日）

全セグメントの売上高の合計に占める「日本」の割合が90%を超えているため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

[海外売上高]

当第2四半期連結累計期間（自平成20年4月1日 至平成20年9月30日）

海外売上高が連結売上高の10%未満のため、海外売上高の記載を省略しております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

平成20年5月15日から平成20年6月6日までに、自己株式を市場買付けにより取得いたしました。この結果、第2四半期連結累計期間において自己株式が2,438百万円増加し、第2四半期連結会計期間末において自己株式が7,228百万円となっております。

「参考資料」

前年同四半期に係る財務諸表

(1) 中間連結損益計算書

	前中間連結会計期間 (自 平成19年4月1日 至 平成19年9月30日)	
区分	金額 (百万円)	
I 売上高		88,119
II 売上原価		21,279
売上総利益		66,839
III 販売費及び一般管理費		
1. 広告宣伝費	5,105	
2. 販売促進費	18,640	
3. 運送費	2,673	
4. 給料及び手当	19,155	
5. 退職給付費用	416	
6. 福利厚生費	3,410	
7. 旅費交通費	—	
8. 減価償却費	1,275	
9. 租税公課	—	
10. その他の費用	9,465	60,142
営業利益		6,696
IV 営業外収益		
1. 受取利息	156	
2. 受取配当金	79	
3. 特許実施許諾料	43	
4. 為替差益	—	
5. 雑収入	61	342
V 営業外費用		
1. 支払利息	24	
2. 有価証券償還損	—	
3. 貸倒引当金繰入額	—	
4. 開業費償却	—	
5. 為替差損	8	
6. 雑損失	13	46
経常利益		6,992

	前中間連結会計期間 (自 平成19年 4月 1日 至 平成19年 9月30日)	
区分	金額 (百万円)	
VI 特別利益		
1. 固定資産売却益	—	
2. 貸倒引当金取崩益	16	
3. 投資有価証券等売却益	10	
4. 移転補償金	—	27
VII 特別損失		
1. 固定資産処分損	64	
2. 投資有価証券等評価損	5	
3. 貸倒引当金繰入額	135	
4. 貸倒損失	34	240
税金等調整前中間 (当期) 純利益		6,779
法人税、住民税及び事業税	2,680	
法人税等調整額	379	3,059
少数株主利益		585
中間 (当期) 純利益		3,134

## (2) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

	前中間連結会計期間 (自 平成19年4月1日 至 平成19年9月30日)
区分	金額 (百万円)
I 営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前中間 (当期) 純利益	6,779
減価償却費	2,566
貸倒損失	34
貸倒引当金の増減額 (減少: △)	107
退職給付引当金の増減額 (減少: △)	△1,284
役員退職慰労引当金の増減額 (減少: △)	172
その他引当金の増減額 (減少: △)	△5
固定資産処分損益 (益: △)	64
移転補償金 (益: △)	—
受取利息及び受取配当金	△236
支払利息	24
為替差損益 (益: △)	7
有価証券償還損益 (益: △)	—
投資有価証券等売却損益 (益: △)	△10
売上債権の増減額 (増加: △)	926
たな卸資産の増減額 (増加: △)	△2,618
仕入債務の増減額 (減少: △)	2,991
その他資産の増減額 (増加: △)	△10
その他負債の増減額 (減少: △)	△1,591
役員賞与の支払額	—
小計	7,918
利息及び配当金の受取額	233
利息の支払額	△39
移転補償金の受取額	—
法人税等の支払額	△3,649
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,462

	前中間連結会計期間 (自 平成19年 4月 1日 至 平成19年 9月 30日)
区分	金額 (百万円)
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	
定期預金等の預入による支出	△100
定期預金等の払戻による収入	280
有価証券の取得による支出	△13,981
有価証券の売却等による収入	16,978
有形固定資産の取得による支出	△3,567
有形固定資産の売却による収入	4
無形固定資産の取得による支出	△196
投資有価証券の取得による支出	△905
投資有価証券の売却等による収入	110
その他投資等の増減額 (増加: △)	△25
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,402
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入金の増減額 (減少: △)	△65
自己株式の売却・取得による収支 (支出: △)	△2
親会社による配当金の支払額	△1,200
少数株主への配当金の支払額	△32
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,301
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額	91
V 現金及び現金同等物の増減額 (減少: △)	1,850
VI 現金及び現金同等物の期首残高	31,119
VII 現金及び現金同等物の中間期末 (期 末) 残高	32,970

(3) セグメント情報

[事業の種類別セグメント情報]

前中間連結会計期間 (自 平成19年4月1日 至 平成19年9月30日)

	化粧品事業 (百万円)	コスメタリ ー事業 (百万円)	その他の事 業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全 社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	64,482	22,254	1,381	88,119	—	88,119
(2) セグメント間の内部売上高又は 振替高	9	—	1,184	1,194	(1,194)	—
計	64,492	22,254	2,566	89,313	(1,194)	88,119
営業費用	57,249	21,616	2,253	81,119	303	81,422
営業利益	7,242	638	312	8,194	(1,497)	6,696

(注) 1. 事業区分の方法及び各区分に属する主要な製品の名称

事業区分は、内部組織管理上採用している区分によっております。

- (化粧品事業) 主要製品：コーセー・ボーテ ド コーセー・コスメデコルテ・プレディア・  
インフィニティ・製商品輸出・海外生産品・クリエ・アルピオン
- (コスメタリー事業) 主要製品：ファシオ・エルシア・サロンスタイル・ソフティモ・  
スティーブンノル コレクション・リンメル
- (その他の事業) 主要製品：アメニティ製品・不動産賃貸・原材料輸出・美容材料

2. 営業費用のうち消去又は全社の項目に含めた配賦不能営業費用の金額は、1,498百万円であり、その主なものは、提出会社の管理部門に係る費用及び基礎研究費用であります。

[所在地別セグメント情報]

前中間連結会計期間 (自 平成19年4月1日 至 平成19年9月30日)

全セグメントの売上高の合計に占める「日本」の割合が90%を超えているため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

[海外売上高]

前中間連結会計期間 (自 平成19年4月1日 至 平成19年9月30日)

海外売上高が連結売上高の10%未満のため、海外売上高の記載を省略しております。